

兵庫県こころのケアセンター 令和元年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が目標人数を大きく上回っており、研修満足度も高いことは、頻発する災害、虐待、DVによる被害者へのこころのケアのニーズが高いことに加え、毎回のアンケート調査を通じて研修内容の改善に取り組んでいる表れである。 ・専門的な内容を展開する特別研修は、当センターでしかできない、大変意義のある事業であり、高く評価される。 ・現場ニーズの高い子どものこころのケアについて、具体的・専門的な研修が企画されており、全国的に児童精神科専門スタッフが少ない中、この領域の研修は、より望まれていくと思われる。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころのケア国際シンポジウム」では、適時適切な情報発信を実現し、参加者からの関心と高い評価が得られ、学び多い記念事業となった。その記録をYouTubeで配信し、広く周知に努めたことは、評価に値する。 ・ホームページのアクセス件数の多さは、当センターの掲載資料に対する関係者の期待の高さが窺われ、引き続き、タイムリーで充実した情報発信を期待する。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひょうごDPAT」研修の内容の不断の見直しに取り組むとともに、関西地域のDPATとの連携で、強固な支援体制の確立につなげながら、当センターの専門技術を必要とする災害への対応が積極的、継続的になされている。 ・ダイヤモンドプリンセス号支援で見えてきたDPATの課題等、国のDPAT活動の方針・方向性に意見していける存在になっていくことを期待する。
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・トラウマ・PTSD相談、とりわけ虐待・DV、性被害相談が相談内容の多くを占め、児童相談所等からの相談も増えていることから、当センターが専門的な役割を十分果たしており、子どものトラウマ・PTSDの専門機関であるとの認知も定着していることがわかる。 ・学生、勤労者の相談件数の増加など、土曜日の開庁の意義は大きい。 ・関係機関との連携をもとにした高度な専門的、継続的な支援を継続するとともに、全国的にトラウマ・PTSD相談が増加する中、相談ノウハウを他の自治体事業所にも広げていってほしい。
附属診療所の 運営	A	<ul style="list-style-type: none"> ・トラウマ治療を専門的に行える医療施設が少なく、当センターへの期待は非常に大きいものがある中で、トラウマフォーカスト認知行動療法（TF-CBT）による子どもの治療など、診療機関としての役割が一層高まる方向にある。 ・受診者数は昨年度よりやや減少しているが、学生・勤労者の受診及び、初診者のうち子どもの割合が増えており、土曜日の診察をすることで、治療を受けにくい層の治療も可能となっている。

評価対象事業	評価	所 見
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講座、専門講座ともに定員を満たすことが出来ず、専門講座修了者も目標を下回る結果となった。 ・音楽療法の社会的有用性や職業としての魅力について広く興味・関心を促し、裾野を拡大していく取り組みが求められる。 ・コロナ禍で、講演会、研修会の開催が困難を伴うため、今後、参加者の募集について工夫するとともに、一般向けの音楽療法の普及にも取り組んでほしい。
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時宜を得たテーマや講座内容の見直し、募集方法の工夫、SNS等を使った積極的な広報を展開したことにより、目標の150名を大きく超える199名の受講者を獲得し、受講者の満足度も高かったことは評価できる。 ・今後も世相を反映したテーマでの講座をお願いしたい。
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> ・診療収入についての料金の見直し、宿泊施設のPR、経費の節減に努め、効率的な運用と自主財源の確保が進められ、安定的な運営になっている。 ・少ないスタッフで、収支バランスを安定させて運営できているのは、スタッフの献身的な活動に支えられている。働き方改革が進められる中、スタッフの心身の健康に留意いただきたい。
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・広領域にわたる長期研究について、いずれも継続的な取り組みが進められ、研究の展開が期待されるとともに、被災者や被害者・遺族となったきょうだい・PTSD患者・DV 被害者などに関連する短期研究の4題のテーマは、これまで研究実績が少なかった分野であり、研究の成果を期待する。 ・競争的資金による研究では、多数の研究資金を獲得し、その成果の研究誌への投稿など、当センターの研究者と研究テーマが高く評価されている。 ・研究を進めるにあたっては、他の研究機関とも連携して進めてほしい。

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。